

平成21年度

学 校 評 価

《最終反省》

平成22年2月19日

大阪市立放出中学校

1. 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤として、「生きる力」の核となる豊かな人間性をはぐくむ教育活動を推進する。

2. 重点目標

- ・基礎学力の確実な定着を図り、自ら課題を見つけ、学び、考え、解決する力の育成に努める。
- ・互いの違いを認め合い、個性を尊重しあえる集団を育成し、豊かな人間性の伸張に努める。
- ・健康でたくましい心身を育て、自立的な生活習慣や態度を、教育活動全体を通して養う。
- ・自立心や自制心、社会への関心を育て、主体的に進路を開拓していける意欲・態度・能力の育成に努める。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	達成状況	評価の理由
(1) 学校経営	B	教職員・保護者アンケート・教育指導計画
(2) 学習指導	B	教職員アンケート・教育指導計画
(3) 進路指導	A	教職員アンケート・教育指導計画
(4) 生活指導	A	教職員・生徒アンケート・教育指導計画
(5) 保健管理・指導	A	教職員アンケート・教育指導計画
(6) 安全管理・指導	A	教職員アンケート・教育指導計画
(7) 特別支援教育	B	教職員アンケート・ケース会議・教育指導計画
(8) 教職員の研修	A	教職員アンケート・教育指導計画
(9) 人権・道徳教育	A	教職員アンケート・教育指導計画
(10)		
(11)		

4. 次年度への改善点

- 1 挨拶の励行に努めることにより、より良い人間関係を育成する。
- 2 個に応じた指導を充実し、個々の存在感を大切にすることにより、生徒の出席率向上を目指す。
- 3 基本的な生活習慣の定着をめざし、遅刻者の減少をはかる。
- 4 保護者との連携を密にし、PTA行事や学年懇談等で互いの関係を作り、懇談の出席率アップを目指す。
- 5 言語力や表現力を育成するための指導を各教科で工夫するとともに読書指導に取り組む。
- 6 適切な宿題やシラバスを提供するとともに、家庭学習のやり方を指導することにより、家庭学習の習慣化に取り組む。

A：目標を上回って達成できた B：目標をおおむね達成できていた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った
項目別評価シート

(1) 学校経営（最終反省）

目標：人間尊重の精神を基盤として、「生きる力」の核となる豊かな人間性をはぐくむ
教育活動を推進する。

取組内容（指標）	達成状況	
① 基礎学力の確実な定着を図り、自ら課題を見つけ、学び、考え、解決する力の育成に努める。	A	B
② 互いの違いを認め合い、個性を尊重しあえる集団を育成し、豊かな人間性の伸張に努める。	B	
③ 健康でたくましい心身を育て、自立的な生活習慣や態度を、教育活動全体を通して養う。	B	
④ 自立心や自制心、社会への関心を育て、主体的に進路を開拓していける意欲・態度・能力の育成に努める。	B	

結果と分析

- ①
- ・自作プリントや朝の学習の小テストなどで基礎学力の充実を図った。
 - ・習熟度別少人数指導やTTの授業を通してきめ細かな授業を行った。
 - ・教科によっては家庭学習ができるノート作り、家庭学習の充実にも取り組んだ。
 - ・公開授業研究は教諭の20%が実施した。
 - ・全国学力・学習状況調査の結果から、国語は、A・B問題ともに全国平均より下回っているが昨年と比べると改善されており全国との差が大幅に縮まっている。数学は、全国のA・B問題でも下回っており昨年度とほぼ同様の結果である。A問題では上位と中位に2つの山が見られ、B問題では上位が少なく下位が多い。
 - ・生徒質問紙調査からは、平日休日の家庭学習に2極化が見られ、宿題や予習復習の習慣付けが必要である。
- ②
- ・修学旅行の農業体験学習・1・2年生の遠足、体育大会や文化祭、水泳大会、百人一首大会等の学年行事を通して、互いに尊重しあえる集団の育成に努めた。
 - ・遅刻防止週間、おはよう運動、自転車登校取り締まり指導など自立的な生活習慣が身に付くようにした。
- ③
- ・全校集会で地域行事への参加を呼びかけ、地域防災訓練に参加したり、地域の運動会、社会を明るくする運動の標語、城東区の町作り絵画作品にも多数応募したり、ミニマラソン等の地域社会への関心を育てた。
 - ・キャリア教育の一環として3年で出前授業・2年職業講話をおこない、主体的に進路を開拓する意欲のきっかけを養った。
 - ・1年生で歯の健康教室・年2回の検診、2年生で目の健康教室、3年生で助産師からの講話により、自らの心と体を大切にする姿勢を培った。

次年度への改善点

- ・挨拶の励行に努め、80%の生徒が自ら進んで、誰にでも挨拶できる校風をつくる。
- ・生徒出席率が本年度は、95%であったが来年度は、不登校生徒の減少も含め、生徒出席率98%を目指す。
- ・遅刻防止週間等を活用し、月4回以上遅刻0人の日を目指す。
- ・PTA行事や学年懇談等の保護者の出席率が低く、出席率5%アップを目指す。
- ・言語力や表現力を育成するための指導を各教科で工夫するとともに読書指導に取り組む。
- ・適切な宿題やシラバスを提供するとともに、家庭学習のやり方を指導することにより家庭学習の習慣化に取り組む。
- ・小中連携の取り組みを積極的に行う。
- ・授業研究、校内研修を充実させる。

(2) 学習指導（最終反省）

基礎学力を定着させ、自ら考え学ぶ態度を育てる。

取組内容（指標）	達成状況	
① 小テスト等を行い、学習理解の確認に努めている。	A	B
② 実験実習などを通じて関心を高める取組をしている。	A	
③ 読書習慣の育成に努める。	B	
④ パソコン等の情報機器を活用している。	B	
⑤ 生徒の自主性を伸長させるため生徒会活動の充実に努めている。	B	
⑥		

結果と分析

- ・プリントや小テストによる学習により学習理解・学習力向上に各教科で努めた。
- ・実験・実習などを通して、意欲・関心の向上に努めた。
- ・さらに、読書習慣の育成に努めていかなければならない。
- ・パソコン等の情報機器については、その活用をこれからさらに深めなければならない。

次年度への改善点

（国語）校舎の改修等もあり、状況的にも図書の利用やパソコンの利用が難しかった。今後それらの整備に合わせてできる取り組みを模索していく。小テストや学習プリントの活用は引き続き積極的に継続していくき、基礎学力の定着を図っていく。

（社会）情報機器、視聴覚機器の活用を積極的に行う。教室の掛け地図を生徒が見やすい位置に取り付ける。

（数学）更なる習熟度別・少人数授業の在り方の検討。

（理科）生徒のレベルにあった小テストの問題を蓄積する。理科室の整備、視聴覚教材の活用をする。

（音楽）より音楽性の高い表現を旨として取り組んでいきたい。

（美術）興味・関心のある教材を考え、制作意欲をこれからも生徒たちが持てるように努力したい。

（保健体育）基礎体力が向上するような種目を取り入れたい。

（技術家庭）パソコン教室の機器が一新され、それに伴うソフトも変更を受けたので、今までの授業内容を大きく変更せざるをえなくなった。新しい機器でのカリキュラムを考える必要が出てきた。

（英語）限られた時間の中で、4技能（読む、書く、聞く、話す）をバランスよく指導していくための方策をさらに考えていく必要がある。また小学校との連携を進める必要がある。

(3) 進路指導（最終反省）

目標：適切な職業観や勤労観をもち、自らの進路を切り開いていける能力や態度を身につけさせる。

取組内容（指標）	達成状況	
① 進路指導体制が整備され、学級担任を中心とした進路指導を行っている。	A	A
② 進路の情報の収集を計画的に行い、情報の活用に工夫している。	A	
③ 人材バンクなどの活用等で、体験学習の導入など、学習形態や指導方法の工夫を図る。	B	
④		
⑤		
⑥		

結果と分析

①については、90%以上が「できている」「だいたい出来ている」と回答している。

・各学年とも将来の進路に向けた学習時間を取っており3年間を通して自己の進路選択を決定する参考になっている。

②についても、90%以上が「できている」「だいたい出来ている」と回答している。

・年2回の進路保護者説明会で用いる資料、私立高等学校の説明会資料、公立高校の説明会資料、進路選択に向けての進路の手引き、私立、公立高校の最新情報などを提供している。

③については、半数近くが「あまり出来ていない」「出来ていない」と回答しているが、

・3年生での高校出前授業、2年生では、ゲストティーチャーによる職業講話を行なった。

次年度への改善点

・進路にかかる内容が3年生中心になり、他の学年との連携が不十分な面がある。

・三カ年を見据えたキャリア学習の計画が必要である。

(4) 生活指導（最終反省）

目標：自律的な生活習慣や態度を養う。

自主的に活動できる集団の育成に努める。

取組内容（指標）	達成状況	
① 家庭と学校の連携を密にし、生徒一人ひとりの生活実態の把握に努める。	A	A
② 基本的な生活習慣を身につけさせるため、きめ細かな指導に努める。	B	
③ 生徒一人ひとりが自他を尊重し、互いに支え合う生徒集団の育成に努める。	B	
④ 教育相談体制を整備し子どもの実態把握に努める。	A	
⑤ 部活動を、より活発化させる。	A	
⑥		

結果と分析

- ・各取組について、努めてはいるが、今後の課題や問題点もある。
- ・学校側の指導に対して保護者の理解を得にくい場合がある。

次年度への改善点

- ・家庭と学校の連携をより一層密にする。
- ・生徒に対してより一層丁寧で、根気強い指導を行う必要がある。
- ・不登校生への組織的な対応が必要である。

(5) 保健管理（最終反省）

目標：健康でたくましい心身を育てる。

取組内容（指標）	達成状況	
① 規則正しい生活の習慣と、健康の保持・増進を図る知識を身につけさせる。	A	A
② 健康診断で発見された疾病について、早期の治療をすすめる。	B	
③ 「保健だより」で保護者・生徒への啓発をするよう努めている。	A	
④ 校内美化と学習環境の整備に努める。	A	
⑤		
⑥		

結果と分析

・むし歯などの本数を生徒数で割って表すDMFT指数が1年・0.87、2年・1.00、3年・1.60と低く、放出中学校生の口腔内の状態は引き続き良い状態で、昨年10月に第48回全日本学校歯科保健優良校表彰で、奨励賞を授与された。

・しかし、11月の視力検査後視力がC（0.7～0.3）とD（0.3未満）の受診済者が1年：38名中4名、2年：53名中9名、3年：58名中9名と受診率が低い。

・校内事故によるケガが減った。

次年度への改善点

・視力のC、Dの生徒について矯正視力（メガネ等を利用して）をAになるよう再々度受診票を発行したい。

・受診率の向上をはかる必要がある。

(6) 安全管理（最終反省）

目標：安全生活への関心を高め実践的な態度を養う。

取組内容（指標）	達成状況	
① 防災計画等を作成し、校内安全について共通理解を図っている。	A	A
② 避難訓練を計画的に行っている。	A	
③ 定期的に校内安全点検管理を行い生徒の安全確保に努めている。	B	
④		
⑤		
⑥		

結果と分析

- ・防災計画に基づき、年間2回の避難訓練を実施し、火災や地震に対する意識づけはできた。校舎改築工事中の安全面についても、ほぼ確保できた。
- ・校内の安全点検や登下校時の交通ルール・マナーの向上に関して、さらに努めたい。

次年度への改善点

- ・聴力障害の生徒の入学を考慮し、非常を知らせるパトライトの設置や、部活動時の防球ネットの使用の徹底を図りたい。
- ・出発・停止合図などは、笛ではなく音と同時にライトが光る視覚認識方式へ計画的に行っている。

(7) 特別支援教育（最終反省）

目標：特別支援を必要とする生徒とともに生きる集団の育成をめざし、
共生の視点に立った取り組みをすすめる。

取組内容（指標）	達成状況	
① 特別支援を必要とする生徒の教育的ニーズを把握し、支援の取りくみをすすめる。	A	B
② 通常学級のメンバーとして、学級活動や学校行事に参加できる条件作りをすすめる。	B	
③ 学校としての組織的な取りくみをめざし、情報の共有化に努める。	B	
④		
⑤		
⑥		

結果と分析

・入学時アンケート・面談・家庭訪問・連絡帳等によって、保護者との連絡を取りながら、生徒の教育的ニーズを把握し、取りくみをすすめることが出来た。

・学級活動や学校行事に参加できる条件も整いつつある。しかし、学校全体としての組織的な取りくみについては、課題が残っている。

次年度への改善点

・情報の共有化に努め、組織的な取りくみにしていく必要がある。

・ケース会議をすることで連携を密にとりたい。

・通常学級に在籍する生徒への支援をする必要がある。

(8) 教員の研修 (最終反省)

目標：個人や組織の資質向上をめざし、研修の充実に努める。

取組内容 (指標)	達成状況	
① 計画的に校内研修を行う。	A	A
② 研修を通じ教職員の人權についての意識向上に努める。	A	
③ 授業研究会を実施し指導力 (授業力) の向上に努める。	A	
④		
⑤		
⑥		

結果と分析

・本年度は、生徒指導関係の校内研修会とパソコン講習会を実施した。

・また、初年、5年、10年次研修としての研究授業も数多く行われ、多くの先生方の参加があり、授業力の向上に努めようとする姿が見うけられた。

次年度への改善点

・1月と2月に行われたパソコン講習会の参加が少なく、残念だった。次年度は、関心を持っていただけるような研修を考えたい。

(9) 人権・道徳教育（最終反省）

目標：思いやる心を育て、正しい人権意識を身につけさせる。

取組内容（指標）	達成状況	
① 年間指導計画を作成し計画的に人権教育をすすめている。	A	A
② 差別をなくすための学習をすすめる。	B	
③ 平和の学習をすすめる。	A	
④ 自らの言動や行動に責任が持てるようにする。	B	
⑤		
⑥		

結果と分析

- ・他の行事との兼ね合いで時間の確保が難しい。
 - ・使用した資料等を整理して、次年度につなげる必要がある。各学年の平和学習で取り組んだ内容の確認をした。
- 1年：“小さな命からの伝言” 他 “夏服の少女”（ビデオ）
- 2年：“サダコの鶴” “ひめゆり戦記” “カンカラ三線”（ビデオ）
- 3年：“ヒロシマ60年の記憶” “戦争は世界でどう語りつがれているか”（ビデオ）

次年度への改善点

- ・最新の資料をもっと活用すると内容の充実につながる。
- ・まとめて取り組む時間が取れないので、内容ごとに時期をずらせて取り組みたいと思います。